

令和7年度 府中市立府中第十小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

第1学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	- 積極的に読書に取り組んでいるが、絵だけを見ていたり、文字の少ない絵本を読んでいたりする児童が多い。また、語彙が少ないため、文章を読んで内容を正しく捉えることが難しい。 - 拗音や促音などの正しい文字表記や活用の仕方に課題がある。 - 登場人物の行動や気持ちを想像したり、感想を書いたりすることが難しい。	- おすすめの本を紹介したり、読み聞かせをしたりする時間を確保する。【発見】 - 授業の中で、視写や簡単な文作りをして正しい言葉の使い方や意味などを理解させる。【表現】 - 時間や場所、様子の変化などを丁寧に整理させたり、友達と考えを伝え合ったりする活動を通して、自分の思いや考えをもつことができるようにする。【対話・表現】		
算数	- 文章題で何を問われているのか理解することにつまづいている。（「どちらがどれだけ多い」「どちらがどれだけ少ない」など問われたことに正しく答えられないなど） - 時計を読むのが苦手な児童が多い。	- 文章問題は、簡単な図や絵の描き方を指導して状況をイメージできるようにして、日常生活の場面に置き換えて立式できるようにする。【発見】 - 短針と長針の動きと読み方を繰り返し指導して定着させる。また、日常生活においても時計を意識した生活を送らせるようにする。【発見・決定】		
生活	- 児童が問題を解決する時間（体験の時間）が十分に確保されていない。 - 気付きを発信する機会が少なく、なかなか気付きの質が高まっていかない。	- タブレットを活用し写真を撮ったりメモを書いたりできるようにし、時間を有効に活用する。【決定】 - 体験活動と表現活動とを相互に繰り返して学習の質を高めていく。その中でよりよい気付きを価値づけ、全体の気付きの質を高める。【表現】		
音楽	- 鍵盤ハーモニカでは、正しい指使いで演奏することが難しい児童がいる。 - リズムに合わせて手拍子を打つことが難しい児童がいる。	- 鍵盤ハーモニカは、指使いやタンギングを中心に、スモールステップで一つ一つできるようになっていく実感をもたせる。また、児童が教え合う場を設けて、満足感や達成感を感じられるようにする。【対話】 - リズム遊びや楽器（タンブリン、カスタネット、鈴など）を使う活動を多く取り入れる。拍に合わせて楽しみながら取り組めるようにする。【表現】		
図画工作	- 絵を描くことが好きな児童が多いが、苦手な児童もいる。 - 絵の具やハサミなどの道具の使い方の巧拙に個人差がある。	- 自分の思いやイメージに自信をもたせるために、発想やイメージを褒めていき、作品作りの楽しさを味わわせる。【発見】 - 様々な材料に触れる機会をつくる。道具は約束を決めて、安全に使えるようにするために、図を示しながら説明する。【決定】		
体育	- ルールを守ったり、勝敗を受け入れたりすることができない児童がいる。 - 固定施設を使って、登り下りや渡り歩き、逆さ姿勢などをとることができない児童がいる。	- ルールや場を工夫して、楽しみながら運動できるようにする。児童が視覚的にも理解しやすいように説明をする。また、勝負の結果だけでなく頑張った過程も認め、励ます。また、児童が見つけた友達の良い動きを共有して、より楽しさを感じられるようにする。【決定・対話】 - 動きのポイントを学級全体で指導するとともに、ねらいを明確にした言葉がけを具体的に行うようにして、基本的な動きを身に付けられるようにする。【発見・決定】		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和7年度 府中市立府中第十小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

第2学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	- 既習の漢字やカタカナ、助詞を正しく使って文章を表現することに課題が見られる。 - 説明文・物語文の両方において、文章に書いてある内容の読み取りに個人差が大きく、読み取ったことを基に自分の考えを表現することが苦手な児童が多い。	- ノートで文作りやプリントでの復習等を繰り返し、正しい言葉の使い方や表記ができるようにする。【表現】 - 叙述を基にした内容の理解や、自分の考えをノートにまとめる経験を積み重ね、読みの力を高める。また、ペアやグループでの活動を取り入れて考えを交流することで、読みを深められるようにする。【対話】		
算数	- 知識・技能のつながりが乏しく、定着に課題が見られる。 - 自分の考えを伝えたい意欲があるが、友達の考えに関心をもてないことがある。	- 既習事項を活用できたときに、本時の学習とのつながりを見つけさせて、同じ考え方で解決できることを意識させる。【発見】 - 友達の考えを解釈したことを通して、学びが深まる経験を積み重ね、すすんで考えを聞こうとする姿勢を育む。【対話】		
生活	- 植物や生き物に触れ合ったり、育てたりする経験が十分でない児童がいる。 - 植物の育ちの変化や成長の様子などについて、観察の仕方や表現の仕方が分からず、不安に感じている児童がいる。 - 地域の施設を利用している児童が多いが、自分たちがお世話になっている方々の存在に気付いていない。	- 朝顔の観察や虫取りなどの活動を設定し、植物や生き物に触れ合う体験をさせるとともに、話し合いを通して気付きを共有できるようにする。【発見・対話】 - 児童の実態に応じた問いを吟味したり、観察の際の視点を明確にしたりすることで、児童が目的意識をもち、楽しみながら活動できるようにする。【表現】 - 身近な場所に実際に出掛け、諸感覚を働かせながら見たり聞いたりすることなどを通して、自分と地域の方々との関わりについてとらえることができるようにする。【発見】		
音楽	- 楽器を使って 音楽を楽しむことを恥ずかしがったり、苦手としたりする児童がいる。 - 歌うことが好きで楽しんで歌っている児童が多い中、曲をあまり知らなかったり、恥ずかしがったりして歌うことが苦手な児童もいる。 - 鍵盤ハーモニカに苦手意識があり、練習をする前にあきらめてしまう児童がいる。	- リズム楽器を使い、曲に合わせて自由にリズム打ちをする時間を設け、体を動かしながら曲にのり音楽の楽しさを味わえるようにしていく。【発見】 - 教科書や歌集から児童の好きな曲を出し合い、曲を聞いたり歌ったりする時間を設け、歌うことが楽しくなるようにする。【表現】 - 個人練習の時間を増やすだけでなく、子供たちが1対1で教え合う場を設け、互いに頑張り合うことで達成感、満足感がもてるようにしていく。【対話・決定】		
図画工作	- 絵を描くことが好きで、イメージしたことをのびのびと表現できる児童が多いが、描くことが苦手な児童もいる。 - 最後まで集中して作品を仕上げようとする児童がいる一方で、集中が続かず簡単に作品を仕上げてしまう児童もいる。 - 絵の具やハサミ・のりなどの道具の使い方に個人差がある。	- 一人一人の発想やイメージを褒めていく。また、下書きや設計図をかく。完成がイメージできるように見本を提示する。【発見】 - 工夫をしている児童の作品等を紹介し、児童の制作のヒントとなるようにする。【対話】 - 道具を安全に使えるよう、正しい使い方を図や実物投影機等を活用し、分かりやすく伝えるようにする。【決定】		
体育	- 運動に親しみ、すすんで体を動かそうとしているが、状況を見て、安全に気を付けることには、課題がある。 - 手で体を支えて移動したり、姿勢を保持したりすることに課題が見られる。	- どのような行動が安全に気を付ける行動かを明確に示す。【発見】 - 主運動につながる運動をする際に、動物歩きやかえるの足打ちなどを取り入れ、腕支持の感覚を高める。また、手、肩、腰などの位置を意識して運動することで感覚を養いやすくする。【表現】		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和7年度 府中市立府中第十小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

第3学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	- 問題として出題された漢字を書くことができていない児童でも、既習の漢字を用いて文章を書くことができていない。 - 段落相互の関係を考えながら読むことに関して、課題がある児童がいる。 - 登場人物の心情や場面の移り変わりを読み取ることは概ねできているが、その根拠を明確にできない児童がいる。	- 熟語作りや文作りなどを通して、既習漢字使って表現する機会を設ける。【表現】 - 目的を明確に示し、児童に目的を意識させながら、中心となる語や文にサイドラインを引かせるようにする。【決定】 - 文章のどこから考えたのかをグループで交流し合い、叙述に即した読み方ができるようにしていく。【対話】		
算数	- 九九の逆算である除法の習熟度に差が見られる。 - 何時何分かを読むことは概ねできているが、時刻の計算(何時間何分後、時刻間の差の計算)に課題がみられる。 - 加減乗法の計算はできるが、式の意味理解や日常場面からの立式に課題がみられる。	- 個別指導や小テストを通して定着度を確認し、達成状況に応じて支援する。 - 実生活に基づく問題を多く取り入れ、児童が時間の感覚を身に付けられるようにする。【表現・対話】 - 文章問題を解く際に図を描いて考える習慣を育て、図と式を結び付けて考えることができるようにする。【表現】		
理科	- 不思議なことを見つけ、問題を作るような指導を続けたことで問題把握や予想はできる児童が多い。しかし、予想を確かめる方法を具体的に考えることはまだ難しい。 - 問題解決的な学習に慣れていないため、問題作り、予想、実験・観察、考察、まとめの各段階が繋がっていない児童が見られる。	- 問題把握の場面では、驚きや不思議な気持ちをもてるような活動を設定することを続ける。【発見】 - 問題解決的な学習を続けることで、理科の学習の仕方に慣れさせる。板書を工夫し、2時間以上にわたる学習であっても、問題作り、予想、実験・観察、考察、まとめが一目で分かるようなノート指導を行う。【表現】 - ペアやグループを活用し、実験の方法や分かったことを相談させる時間を設定する。【対話】		
社会	- つかむ場面で図や資料を見て、気付いたことや疑問に感じたことを多くを見つけることはできるが、調べる場面で教科書や副読本などを使って調べたことや考えたことをまとめる力に差がある。 - まとめる場面で学習問題に対するまとめを行う際に、これまで調べたことをもとに、自分の考えをまとめることが難しい児童が多くいる。	- つかむ場面では、多くの資料の中から児童の気付きが多く出そうな資料を精選し、学習問題作りを行い、その際に出た気付きや疑問から学習計画づくりにつなげていく【発見・決定】 - 調べる場面では、絵や図だけでなく、地図やグラフなどの見方にもなれるように指導を行う。また、資料から分かったことを友達と共有し、交流させることで学習の充実を図る。【対話・発見】 - まとめる場面では、単元の学習問題や各時間の問いに対して、調べたことをもとに考えるよう指導する。また、書き出しに困っている児童には、最初の一文を提示したり、これまで調べてきたことを見返したりするよう指導を行う。【表現】		
音楽	- 声を出して歌うことに楽しみながら歌唱する姿が多く見られる。一方で、発表会などの本番では緊張により、日頃の力を十分に発揮できない児童もいる。 - リコーダーの演奏に興味をもって意欲的に取り組む児童が多く見られる一方で、関心が低い児童もあり、技能面や意欲面で個人差が生じている。	- 歌詞の意味やリズムに着目しながら楽譜を読み取る活動を通して、歌唱への理解と表現力を高め、日常的に安心して声を出せる環境づくりを重視する。【発見】 - 児童同士の協働的な学びを促すため、グループでの練習活動を取り入れ、互いに音を聴き合いながら演奏の工夫や助言を共有することで、個人差の緩和と学習意欲の向上を図る。【表現・対話】		
図画工作	- 絵を描くことが好きで、イメージすることが得意な児童がいる一方で、イメージをもてない児童もいる。 - イメージを表現することが得意な児童がいる一方で、イメージを表現することが苦手な児童もいる。 - 最後まで集中して作品を仕上げようとする児童がいる一方で、作品を簡単に仕上げたり諦めてしまったりする児童もいる。	- 下書きや設計図を描く時間を確保し、児童間でのアイデアの共有を促す。また、完成形を見通しやすくするため、見本を提示する。【発見】 - 作品の上手さや出来栄ではなく、作品の工夫した点や努力した点を重視し、その頑張りを価値づける。 - 制作の中で、工夫をしている児童の作品を紹介し、他児童への制作のヒントとして活用する。また、工夫のプロセスや成果を共有できるようにする。【対話】		
体育	- 運動に親しみ、すすんで体を動かそうとしているが授業後の姿を明確にもつことが苦手な児童がいる。 - 自分の目標に向かって何度も挑戦したり試行錯誤したりすることに課題が見られる児童がいる。 - 体を支持したり転がったりするなどの基礎的な動きに課題がある。	- 振り返りの時間を十分に設け、本時で頑張った点や次時に改善したい点を書けるようにする。【表現】 - グループ活動やペアでの試行錯誤を通じて、仲間同士でアイデアや努力を共有できるようにする。【対話】 - タブレットを活用してフォームやコツを確認し、自分の動きを改善しやすくする。【発見】		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和7年度 府中市立府中第十小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）
第4学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2 学期末	年度末
国語	- 朝読書や図書の時間には集中して読書をしているが、下学年向けの本を読んだり、特定のジャンルに絞って読んだりしていることが多い。多様なジャンルの本に幅広く触れさせたい。 - 説明文の内容は捉えられるが、筆者の主張と事例の関係等、段落相互の関係を考え文章構成の形式を捉える力には個人差がある。 - 物語の登場人物の気持ちを表面的に捉え表現することはできるが、叙述を基にして気持ちの変化や情景等を想像する力は個人差がある。	- 教員による読み聞かせや本の紹介を計画的に行い、児童同士がおすすめの本を紹介し合う機会を設けて、読書への関心を高められるようにする。【発見】 「比べて考える」「一番を考える」「ランキング付けをする」等、教材に合わせて児童が自発的に考え、活発に話し合いができる活動を設定する。【決定・対話】 - スケーリングで表現させ「もしも…だったら」と想像させる。イメージ化させる等、人物について、なぜそう思えるのか叙述を根拠に表現させる。【表現】		
算数	「わり算の筆算」の単元で、筆算の仕方が十分に定着せず、単元末テストが終わって次の単元の学習に進むと、計算方法を忘れてしまう様子が見られる。 - 文章問題において、問題の意味を理解して、立式することに課題がある。	- デジタルドリルや復習プリントを活用し、習熟を図る場面を毎時間5分以上確保する。【決定】 1 単位時間の授業展開を工夫し、練習問題に取り組む時間を十分に確保する。【決定】 - 具体物ではなく、抽象的な数値を扱う問題は、簡単な数や日常生活の場面に置き換えて立式できるようにする。【対話】		
理科	- 問題解決的な学習の仕方はほとんどの児童が身に付けている。学習内容によっては、考察の際に実験や観察の結果に基づかないことを記述する児童が見られる。 - 予想や実験方法、考察で互いの考えを交流する時間を確保しているが、一部の児童に頼りきりになってしまうグループが見られる。	- 予想と結果が違うときは、意図的に取り上げ、なぜそうなったのかを考察させる。【発見】 - 予想や実験・観察の結果から分かることを話し合う時間を確保し、ペアやグループでの活動に慣れさせる。【対話】 - 学習したことを振り返りやすいようなノート指導を行う。実験・観察から分かったことが明確になるような板書を工夫し、各々がまとめを書くことができるようにする。【表現】		
社会	- 学習の見通しをもつことが苦手な児童がいる。 - 資料を適切に選択して調べ学習をすることが難しい児童がいる。 - 調べたことやそこから自分が考えたことを共有せずに自己完結する児童が見られる。 - 調べたことを基に自ら考えをもち、社会的事象をとらえてまとめることが苦手な児童がいる。	- 学習問題を設定したあと、予想して学習計画を立てる場面に重点を置き、学習の見通しをもたせる。【発見】 - 教科書や副読本の資料を準備し、児童が必要な時に自由に資料を選択し、調べたことをまとめることができるようにする。【決定】 - 教科書や副読本、インターネット等、課題を解決するために必要な資料を自ら選択し調べ学習を行う。【決定】 - 調べたことを児童同士が情報共有できるように、タブレット端末やホワイトボード、黒板等を活用する。【対話】 - 調べたことを基に、学習問題に対する「まとめ」を文や表にまとめる活動を設定する。【表現・決定】		
音楽	- 明るくのびのびと歌うことができる児童が多いが、クラスや周囲の友達によって、委縮してしまうことがある。 - リコーダーの演奏技能が高く、友達に積極的に教え合う児童が多い一方、無気力、手先の不器用さで、リコーダーに苦手意識をもつ児童も多い。	- ただ歌うのではなく、体を動かしたり今月の歌を活用したりして、意欲的に学習に取り組める環境をつくる。【表現】 - 引き続きペア学習やグループ学習を取り入れ、児童同士が協働的に学ぶことができるようにする。ICT を活用し、学習意欲を向上させる。【表現・対話】		
図画工作	- 想像したことを表現する活動には夢中になって取り組むが、対象を造形的に捉えて表現する活動では、本物通りの形や色の意識が強く、抵抗感がある児童が多い。 - 絵の経験は豊富だが、木材を使った活動の経験が浅く、技能や発想力に個人差がある。	- 友人と作品を見合う中で、お互いの表現のよさや工夫に気付けるようにし、それぞれの感じ方や表現があることに気付けるようにする。【対話】 - 彫刻刀やくぎ打ち、糸鋸などの活動を通して、木の感じや形のよさに気付けるようにする。【発見】		
体育	- 基礎的な体力に課題がある。 - 自分が目指す姿に向かって、自己の活動を振り返ったり工夫したりと、試行錯誤を繰り返すことに課題のある児童がいる。 - めあての設定、振り返りについて、何を書けばよいかが定着していない児童が多い。	- 休み時間や放課後にも体力を高める運動やボールを使った遊びなどを取り入れるなどしていく。【表現】 - 児童が技能ポイントを理解できるように、ワークシートや ICT 機器を活用する。またグループで対話させることで、自己の課題や取り組みを確認できるようにする。【対話】 - グループや個人でめあてを考えたり、活動後にグループで振り返りの時間を設けたりする。【対話・決定】		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2 学期末、年度末に評価する。

令和7年度 府中市立府中第十小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）
第5学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2 学期末	年度末
国語	・文章にまとめて表現をするときに、表現力の乏しい内容や構成の文章になってしまうこと。	・「読むこと」の学習において、物語や説明的文章の内容を捉えるだけでなく、情景描写やオノマトペ、表現技法にも着目させることで、豊かな言語表現を獲得させるようにする。【発見】		
算数	・割合・単分量あたり・比例など抽象化された数量関係の理解が難しい。 ・計算はできて「なぜその式になるのか」を言葉や図で表現し説明することが難しい。 ・学んだことを日常の生活場面に結び付けて考えることが難しい。	・教科書の数値や図だけでなく、教室や校内を教材化し、実生活に基づく活動を通して、数的・図形的概念を五感で発見できるようにする。【発見】 ・グループでの問題解決活動を取り入れ、解き方や、なぜそのやり方を選んだのかなど、理由や考え方を説明し合う時間を確保する。【対話】 ・数式だけでなく、絵や図、言葉など実生活と結び付く課題を扱い、「どのように考えたのか」をノートや、発表で表現させ、プレゼンや学級掲示を活用しクラス全体の学びを共有する。【表現】		
理科	・問題解決的な学習の仕方はほとんどの児童が身に付けているが、学習内容によっては、考察の際に実験や観察の結果に基づかないことを記述する児童が見られる。 ・予想や実験方法、考察で互いの考えを交流する時間を確保しているが、一部の児童に頼りきりになってしまうグループが見られる。	・予想と結果が違うことを取り上げ、なぜそうなったのかを考察させる。【発見】 ・ペアやグループを活用し、実験・観察の結果から分かることを話し合う時間を確保する。【対話】 ・学習したことを振り返りやすいようなノート指導を行い、まとめの場面では、学習してきたことを確かめながら書くことができるようにする。【表現】		
社会	・資料から問いを見いだすことや情報を読み取ることはできているが、社会的事象を特色や意味を考えて説明することに課題がある。 ・読み取ったことを基に図や文などにまとめることに課題がある。	・自分の生活との関連や結びつきに着目できるよう問いかけをする。【決定・発見】 ・まとめる方法（まとめ方）を丁寧に指導し、児童が自分の言葉などでまとめる時間を十分確保する。【表現】 ・調べたことを児童同士が共有できるよう、タブレット端末やホワイトボード、黒板等を活用する。【対話】		
音楽	・歌唱技能が高く、どの児童も明るくのびのびと歌うことができる、二部合唱など友達と合わせて歌うことが苦手な児童が多い。 ・楽器(合奏)経験が少なく、基本的な技能が習得できていない児童がいる。	・アカペラで歌ったり、ペアやグループで歌ったりして、友達の声を聴き合わせて歌う時間を増やしていく。【発見】 ・合奏ではさまざまな楽器を体験してから、自分でパートを決めるなど、パートの役割を意識できるようにする。【発見・決定】		
図画工作	・経験が積みあがっておらず、表現したいことに合わせて経験を生かして表すことができない。 ・扱う用具の難しさや扱うテーマが抽象的なものに変化したことで苦手意識が高まっている児童の様子がみられる。	・友達の作品を見る時間を多く設け、自分とは異なる技術や材料の生かし方、使い方の工夫に気付けるようにする。【対話、発見】 ・ワークシートやカードを用いて、具象的な形や色から徐々に抽象的、立体感、空間的なものの気持ちや音などが理解できるようにしていく。【対話、発見】		
家庭	・自分の考えをもっている、全体で発表することに苦手意識があり、堂々と発表できる児童が少ない。 ・家庭環境によって生活経験に大きな差があり、基本的な技能の習得ができていない児童がいる。	・班の中で意見を出し合ったり、協力して作業したりするなど、児童同士の関わりを増やし、自信をもたせる。【決定、表現】 ・技能面では、教えあったり手助けをし合ったりしながら、友達のよいところを学び合えるようにする。【対話、発見】 ・一人一人の状態をよく把握し、わからないことや不安なことは教員に相談できるように声をかける。【決定】		
体育	・運動経験に大きな差があり、一つの運動は得意だが他の運動は苦手とする児童が多い。 ・ゲーム領域の経験による運動差が激しい。よって、チームとしてどのような課題をもち、どのような練習を行うとチームとして、個人として成長していくのかの見通しを持つことを苦手と感じることがある。	・導入段階で動画を見せるなど、自己の目指すべき姿を想像し、コツや練習方法を考えられるようにしていく。【発見】 ・ゲーム領域の授業の回数を取り入れ、チームとして目指す力を班で共有できるようにする。また、どのような方法で力をのばしていくのか、話し合い、練習方法を決定させる手立てを行っていく。【対話・決定・表現】		
外国語	・コミュニケーションの際、やり取りが一往復で終わってしまうこと。 ・文章を書く際のルールを意識して英文を書くこと。	・簡単な褒め言葉や励ましの言葉等、児童が言えそうな英語表現を紹介することで、やり取りが二、三往復続くようにする。【対話】 ・書く活動の前に、文頭は大文字、単語と単語の間にスペースをあける等について、丁寧に指導する。また、英文を書く機会を増やす。【表現】		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2 学期末、年度末に評価する。

令和7年度 府中市立府中第十小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

第6学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2 学期末	年度末
国語	- 漢字の読み書きが十分に定着していない。 - 文章を正しく読み取る力が弱い。主語・述語の把握、要点整理、心情理解などが困難 - 獲得している語彙が少なく、文章理解を妨げている。	- 日常的に既習漢字を使用し、短文を書かせる。【表現】 - 日常的に宿題で音読を出し、正しく読めるようにする。 - 内容を短く要約し、自分の考えを説明し、友達と確認を行う。【対話・表現】		
算数	- 比例・反比例やデータ分析など、抽象化された数量の変化の関係を実感しづらい。 - 計算が難しくなり正確に解くことはできても「なぜそうなるのか」という意味理解が伴っていない場合が多い。 - 授業中も答えは述べるが、根拠を示しながら説明し、相手を納得させる表現力が乏しいなど、論理的表現力や説明力に課題がある。	- 水の量やお金の増減を実際に操作して変化を観察するなど、具体物や図、グラフを用いて、数量の変化を視覚化する活動を取り入れる。【発見】 - ペア学習やグループでの問題解決活動を取り入れ、解き方や、なぜそのやり方を選んだのかなど、理由や考え方を説明し合う時間を確保する。【対話】 - 複数の解き方や考え方を提示して違いに気づかせ、黒板発表や話し合いの際、自分の考えと根拠を論理的に示すように促す。【表現】		
理科	- 学習問題に対する予想を立てることができる児童は増えている。しかし根拠を挙げて説明することのできる児童は少数である。 - 実験結果や観察結果をもとに、考察することのできる児童は少ない。また実験や観察に意欲的に取り組む児童は多いが、実験結果を基に考察することを苦手にする児童も少なくない。	- 予想に対して根拠を考える時間や支援を設け、図や言葉など多様な表現方法を使って根拠を説明する力を育成する。根拠の例示や比較活動を取り入れ、児童の思考の可視化を促す。【表現】 - 実験や観察の後に「気づきメモ」や「結果のまとめカード」などを活用し、結果から考えを導く習慣を定着させる。個人やグループでの話し合いを取り入れながら、考察力の育成を目指す。【対話】		
社会	- 課題を見付けることはできるようになっているが、計画を立てて、まとめていくことが難しい児童が多い。 - 本時の問いに対して、正対して調べる力がついてきているが、限られた時間の中で多くの情報量から判断・選択する力が足りていない。 - 調べる力に差がある。交流によって本時のキーワードを見出すことができる子がいる一方、解決に至らない児童は、交流までたどりつくことができない。	- 課題に対して予想や調べる計画を立てる時間を十分にとる必要がある。また、計画の中で自己調整する時間を確保できるようにする。【決定】 - 歴史学習では、人物同士の関係性や主な出来事が起きた背景などを関連させて捉えられるように、各自が調べる時間に声をかける。【発見】 - 単元のまとめでは、全体交流も含め、調べたことについて対話をし、関連付けて理解を図る。【対話・表現】		
音楽	- 明るくきれいな声で歌うことができる一方、自分に自信がもてず、周りの友達によって委縮してしまう児童も多い。 - 友達の声や演奏を聴き取る能力が高く、教え合う場面も多くみられるが、全体で発表することが苦手な児童が多い。	- 今月の歌や卒業式で歌う歌を常時活動で取り入れ、歌う機会を増やしていくとともに、教師が前向きな声掛けをし、自己肯定感を高められるようにする。【表現】 - 個人→ペア→全体→個人のように学習形態を工夫し、発表しやすい環境をつくる。児童の実態に応じ、タブレット・ワークシート等教具を工夫する【対話・表現】		
図画工作	- 経験の少なさから、作品をつくる際に材料の特性やよさを生かしきれない。 - 友達の作品を見て、作品の意図や表現の工夫を感じ取ったり、言語化したりすることが難しい。 - 自分の希望や願い発想することはできるが、身の回りの地域や社会の問題まで広げてテーマを考え、発想することが難しい。	- 材料に多く触れたり、使い方を試したりして経験する時間を確保する。【発見】 - 鑑賞の時間を授業の間に設定し、作品の形や色から何を表現しているのかについて考えたことを交流できるようにする。【対話】 - 他教科の学びとの繋がりがりや地域や社会の中の美術や造形を示しながら指導する。【発見】		
家庭	- 経験の少なさから、外気温や室温に合わせた衣服の調整選択の判断が苦手な傾向がみられる。 - 裁縫などの物づくりには意欲的だが、その裁縫作品の機能面や使用する場面設定に対して、目的意識をもって取り組むことに課題がある。	- 外気温や室温に応じた衣服の選び方について、実際の生活場面をもとに考える機会を設ける。モデル提示や気温に関する問題などを通して、児童自身が快適さや安全性を意識できる力を育成する。【発見】 - 裁縫の活動では、目的や使用場面の設定を共有する時間を設ける。「誰がいつ使うのか」「どんな工夫が必要か」といった視点から、活動への目的意識を持たせるよう支援する。【表現】		
体育	- 普段の運動する時間が少ない。 - 一つの運動領域に特化している児童が多い。 - 運動が得意な児童と不得意な児童の差が激しい。	- 運動の日常化を図るために、授業や家庭でできるような運動を紹介する。【表現・決定】 - いくつかの練習の場を用意し、個人の課題やレベルに合った練習ができるようにする。【決定】 - 仲間との関わりを通じて、教え合い励まし合う授業を実践する。【対話】		
外国語	- 既習事項を活用して英語を書いたり話したりすること。 - 英語を読み意味を理解すること。	- 英文の書く活動や自分の思いを伝える言語活動を多く取り入れ、既習事項に何度も慣れ親しむことができるようにする。【対話・表現】 - 簡単な英文を読む活動や絵本の読み聞かせを行い、読むことに関する力を育成する。【決定】		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2 学期末、年度末に評価する。